



間伐材で地盤補強

日本建設技術(佐賀県唐津

市、原裕社長、0955564・

2525)は、9月中旬に間伐

材を活用した軟弱地盤補強工

法(ラフト&パイル工法)の実証

実験を佐賀市川副町で始める。

データを収集したあと、早けれ

ば2012年初めにも自治体向

けの営業活動に入りたい考え。

間伐材を使った軟弱地盤補強工

法は、セメントや鋼材を使った

工法に比べて二酸化炭素(CO

2)排出量を削減できるため実

験結果に関心が集まりそうだ。

11年7月まで工程の確認や沈

下量のデータ測定などを行った

あと、国土交通省の新技术情報

提供システム「NETIS」に

登録を申請する。認可が下り次

第、佐賀県をはじめ各都道府県

向けを中心にPRに乗り出す。

実証実験の費用は約1000万円

円で、同社が半分を負担し、佐

賀県地域産業支援センターが半

CO₂削減効果に期待 日本建設技術

分を助成する。

同工法は平均直径20センチ、長

さ4メートルの間伐材424本を12

角の土地に2層に敷き詰める。

この周りを平均直径20センチ、長

さ6センチのくい192本で固定し

て、この上に土を3層盛るとい

う内容。敷き詰めた間伐材が地

下水以下に沈下すれば、腐るこ

となく長期間安定した状態を保

てる。

さらに大気中のCO₂を吸収

して育った木材を地中に埋め込

むことで、CO₂を固定化でき

る。同様の工事をセメントや鋼

材で行えば、逆にCO₂を排出

することになる。地下水以下に

埋められた木材が腐らないこと

は、数百年前の工事の跡地で確

認されており、海水でも同様の

効果がある。木材を数百年にわ

たって土中に埋め込む工法が定

着すればCO₂削減効果が見込

める。

(福岡)